國立成功大學 108 學年度碩士班招生考試試題

系　　所：台灣文學系

考試科目：外文文學文獻解讀（日文）

考試日期：0223，節次：4

※ 考生請注意：本試題不可使用計算機。　請於答案卷(卡)作答，於本試題紙上作答者，不予計分。

題 1：下記の引用文をわかりやすいマンダリンに訳してください（30%）

・・・。流れてゐる埤圳の兩側は木麻黃の並木、そしてその木麻黃トンネルのむかふは、どこまでも連る廣野である。どこに家があるのか見當もつかない。果して村と名のつくものがあるのだらうか。だが、近づくにつれて、埤圳の左右はかなりの間隔を置いて行儀よく竝んだいくつかの農家が眼に入つて來た。・・・・。

農家の前の十坪餘りの畑は、どこの家のも餘り實りがよくないやうだ。中には何も植わつてはゐず、すつかり土が固くなつて草の繁つてゐるところもある。見事な内地牛が一匹その草を食んでゐたが、白い呼吸が地面を漂つてゐる。臺灣に來てから眼につくのは野暮な水牛ばかりであつたから、逞しいその牛の姿は惚れ惚れするくらゐであつた。ぼんやりと見てゐると、その牛のうしろからころぶやうにして、小さな赤毛の犬が驅けて來た。さうしてしりごみしながらも、いきなり私に吠えたてた。

—西川満「牛のゐる村」、
『文藝臺灣』第五巻第六號所収、1943 年、11 頁より—

題 2：下記の引用文をわかりやすいマンダリンに訳してください（30%）

・・・。明治前期には、多くの西洋の小説が翻訳されたが、それらは翻訳というよりも翻案に近かった。つまり、原文の意味あるいは筋を紹介すれば足りるという考えでなされていた。その中で初めて、原作に対して忠実に逐語的な翻訳を試みたのが、二葉亭四迷なのである。彼は翻訳の仕方について独自の意見をもっていた。

・・・、森鴎外の翻訳は・・・、原作から自立した創作として定評があった。それに対して、二葉亭の翻訳は、「いや実に読みづらい、佶屈聱牙だ、ぎくしゃくして如何にも出来栄えが悪い。従って世間の評判も悪い、隅々賞美して呉れたものもあったけれど、おしなべて非難の声が多かった」と二葉亭はいっている。・・・・。一方、彼自身が書いた小説『浮雲』は言文一致で書かれ、日本最初の近代小説としてのちに評価されるようになったが、ほとんど同時代に影響を与えなかった。二葉亭自身も創作への関心を棄ててしまった。・・・・。

—柄谷行人『定本 柄谷行人集 日本近代文学の起源』、
岩波書店、2004 年、86～87 頁より—

題 3：下記の引用文を読んだ上で質問に答えてください（40%）

「・・・・。日本に来るバナナの多くは七〇年代以降、それまでの台湾や中南米産から、フィリピン（ミンダナオ島）産にシフトした。この背景には米日の農事多国籍企業（アグリビジネス）がある。しかしミンダナオ島のバナナ農園労働者は、日本にバナナを輸出するため多大な犠牲を被っている。見渡す限りの広大な農園、病虫害を防ぐために農薬が散布される。ときにはヘリコプターで

農薬を散布する。このため農園労働者は農薬を浴びて皮膚の病気におかされたりする。農園労働者の賃金はとても安い。これは安いバナナ少しでもたくさん輸出しようとするからだ。日本人が安い、美味しいと言って食べるバナナの裏にはこのような問題がある。・・・・。輸入食品とそれを輸出するする側の関係をわたしたちはあまりに知らないで、ただ、安いとか美味しいとかばかりに関心が向けられてきた。」

—村井吉敬「鶴見良 行バナナと日本人」、
『戦後思想の名著 50』、平凡社、2006 年、483～484 頁より—

問：引用文中「農事多国籍企業（アグリビジネス）」とあるが、それは具体的に如何なる事業体を指しているのか。このような事業体は、経済先進国が後進国に対しての搾取ないし剥削に関しては、如何なる役割を果たしているのか。それに、70 年代以降台湾バナナの輸出先は日本でなくなった理由を挙げてみてください。また、今日の台湾では食料自給率はわずか 30%にすぎず、それはグローバリゼーション状況に如何に関係しているのか。マンダリンないし日本語を用いて、知っているかぎり簡潔に説明してください。